

新福井空港ビル建設工事基本設計業務委託に係る 簡易公募型プロポーザルの審査について（審査講評）

新福井空港ビル建設工事基本設計業務に係る
簡易公募型プロポーザル審査委員会
会長 五十嵐 啓

〔全体講評〕

本プロポーザルは、令和7年7月に策定された「福井空港ビル再整備構想」が掲げる3つの目指すべき姿

- ①県民の安全・安心を守る防災の拠点空港
- ②観光・ビジネス利用ニーズにきめ細かな対応ができる空港
- ③次世代を育み、地域住民に親しまれる空港

に向けて空港ビルを再整備するため、基本設計を担う建築設計者を選定する目的で実施しました。

参加を表明された2者には、3つの目指すべき姿に関する提案に加え、工法やコストに関する提案を求めました。両者からは、災害時の防災拠点や平常時の観光・ビジネス利用、地域住民の利用を考慮した幅広い視点から、意欲的かつ多様な提案があり、非常に有益なものでありました。

審査委員会において、業務実績、実施体制、技術提案の的確性・独創性・実現性等の観点から、プレゼンテーションや質疑応答の内容を踏まえ、総合的に審査しました。その結果、テーマの趣旨および空港施設の特性を十分に理解し、安全性・機能性・地域親和性のバランスが取れた提案を行った「ヒヤッカ・日本空港コンサルタンツ設計共同体」が、本業務を遂行するに最もふさわしい技術力を有すると判断し、最優秀者として特定しました。

本プロポーザルに参加いただいた事業者においては、業務ご多忙の中、真摯に取り組んでいただいたことに対し、深く感謝と敬意を表します。

今後、最優秀者と特定された事業者には、空港関係者および発注者等と十分に協議を重ね、利用者や地域住民等が長く誇りと愛着の持てる空港ビルとなるよう、基本設計を着実に進めていただくことを期待します。

〔個別講評〕

①「ヒヤッカ・日本空港コンサルタンツ設計共同体」（最優秀者）

空港施設に求められる保安対策（空港制限区域）やチャーター便利用時の保安検査等の機能を的確に把握したうえで、一般利用者と管理者の動線分離やセキュリティ対策などが具体的に提示されており、空港ビルとして求められる機能と安全性に配慮した実現可能性に優れた提案が高く評価されました。

外観デザインには木製スクリーンを取り入れ、県道からの視認性の問題などに対し意匠を工夫するなど、より身近に感じられる空港となる期待を持たせる提案となっていた点も評価されました。

一方で、提案プランの実現に向けて、各諸室面積の再検討、半屋外空間や吹抜の建設コストへの影響、外装に使用する木材の維持管理などの課題も指摘がありました。

業務体制においては、チャーター便の誘致等を見据えた関係者への聞き取りなど積極的な姿勢が示され、質疑応答においても的確かつ明快な回答があり、発注者の要望や課題解決に誠実で迅速に対応できる設計体制となっている点も踏まえ、総合的に設計者として最も適していると評価されました。

②「宮建築設計・福井県建築設計監理協会共同体」（次点者）

福井空港の将来像として、空港ビルに格納庫を一体的に整備する構想や、格納庫をスケルトンとしヘリコプターを常に視認できる計画、空港駐車場を防災公園としての活用など、将来を描いた提案が評価されました。

さらに、スカイ・ラーニングラボや体験型ミュージアム、屋外広場でのイベント利用などのソフト面の提案にも積極的であり、越前和紙や笏谷石など県産品も活用し、地域を重視した住民が空港に親しみをもち工夫も評価されました。

一方で、将来像で示した格納庫等が整備されるまでの期間において、先行して整備する空港ビルの使われ方などについては、具体的な提案が示されず、実現性に課題がありました。

また、屋外広場の空港制限区域などへのセキュリティ計画、VIP動線、チャーター便利用時の保安検査動線など、空港施設に求められるセキュリティ対策に不明確なところがあり、安全面における対策について一層の整理と明確化が必要であるとの意見がありました。